●「SHINWA WALK～伝説そぞろ歩き」は、「ギリシャ神話と日本神話のハイブリッド」という手法で、郷土の神話、伝説、民話の足跡をたどるロマン紀行です。新しい伝説の世界をお楽しみください。

SHINWA WALK 32

32nd Letter

戦人塚伝説

伝説そぞろ歩き

宿り木や
つわものどもが
夢の跡

戦人塚に
静かに眠る

天下を分けた運命の合戦
戦死者を埋葬供養した塚

名鉄前後駅から北へ約500mほどの住宅街の中に戦人塚があります。桶狭間合戦で敗れた今川軍の戦死者2500余人を、大脇・曹源寺二世の快翁龍喜（かいおうりゅうき）和尚が埋葬供養した塚で、昔は駿河塚と呼ばれていました。

塚の中央には高さ約1mの戦人塚の石碑があります。いつ建てられたかは不明ですが、元文4年（1739年）、180回忌の供養祭に建碑されたものといわれています。

また、異説には織田信長が部下に今川軍の死者を調べさせ、その遺骸を集めさせた塚ともいわれています。昭和12年（1937年）12月21日、合戦との関連から桶狭間古戦場伝説地とともに国指定史跡となっています。

ちなみに曹源寺は、名鉄前後駅から南へ約1kmほどのところにあり、永生2年（1505年）、実田以耘（じつでんいうん）和尚によって開創された寺です。

その山門は享保2年（1717年）、地元の住人・梶野清右衛門の寄進によって建立されました。けやき材（一部ひのき材）の三間一戸楼門造りで、桁行三間、梁行二間、屋根は入母屋瓦葺となっています。

眼下に広がる穏やかな眺望とは対照的に、目まぐるしく繰り広げられた「つわものどもの戦い」。勝者がいれば敗者もいます。今川軍からすれば、楽勝ムードが招いた、その油断のせいで奇襲攻撃に破れた悔い多き戦いだったはずです。天下を分けた運命の合戦に思いを馳せながら、今川軍の無念の魂を鎮めるため、厳かに合掌したいと思います。

死者を供養する戦人塚の話でしたが、人間にとって、死後どうなるかは大きな関心事です。ギリシャ神話にも、死後の世界、つまり冥界の話がたびたび登場します。果たして、天国と地獄はあるのでしょうか。

▲ 三間一戸楼門造りで、屋根は入母屋瓦葺の曹源寺山門。

やっぱりあった天国と地獄
冥界を支配するハデス

ギリシャ神話では、冥界にはタルタロスとエリュシオンの2種類あり、前者が地獄で後者が天国とされています。裁判にかけられ、生前の行いによってどちらに行くかが振り分けられるのです。タルタロスに落とされた者たちはそれぞれ厳しい苦役を科せられ、生前の罪を永遠に償い続けなければなりません。一方、エリュシオンは白い不死の花が咲く明るい世界で、「至福の島」とも呼ばれています。

その冥界の神といわれるのがハデスです。ハデスはゼウスの兄弟。ゼウスが天空と地上、ポセイドンが海を支配しているのに対して、ハゼスは死者の世界である冥界を支配しています。ゼウスを含む他の兄弟はすべてオリュンポス12神に数えられていますが、ハデスは自分の領地である冥界に留まってオリュンポスに住むことはなかったため、オリュンポス12神には選ばれませんでした。

ハデスの妻は、ゼウスとデメテルの娘・ペルセポネですが、いわば略奪婚。ある日、野原で花を摘んでいるペルセポネをハデスが見初めて実力行使。ペルセポネが花に手を伸ばした瞬間、大地が割れて深い闇の奥底から真っ黒な馬が引く黄金の戦車に乗ったハデスが現れ、あっという間にペルセポネを冥界に連れ去ってしまったのです。

▲ 桶狭間合戦で敗れた今川軍の戦死者2500余人が眠る戦人塚。

デメテルの訴えにより、ゼウスが仲介に入り、その結果、ペルセポネは1年のうち8ヵ月は地上でデメテルと、4ヵ月は冥界でハデスと暮らすことになったのです。

冥界の入口にはハデスのペットであるケルベロスが番犬として見張っています。3つの頭を持ち、尻尾は竜。口からは火炎を吐き出します。そんな冥界の番犬・ケルベロスに立ち向かった勇者がヘラクレスです。ヘラクレスは12の難業のうちの最後にケルベロスを連れ帰ることを命ぜられたのです。

ヘラクレスは知恵の女神・アテナから冥界へ行く方法を教わり、ヘルメスの先導により冥界に下ります。そしてハデスと会い「武器を使わず素手で捕まえるならケルベロスを連れて帰っても良い」と許可を得ます。ヘラクレスはケルベロスと格闘し、どんなに噛まれても反撃し続け、根負けしたケルベロスの捕獲に成功したのです。

ヘラクレスは冥界から生還しましたが、私たちには、それは叶わないこと。人生に真摯に向き合い、功徳を積んで天国へ行きたいものです。

※次回は裁断橋伝説について特集します。お楽しみに。

■ 写真／Kiyoshi K
■ イラスト／Rei
■ 取材・文／Icarus